

神よ、沈黙しないでください

今まで読み進んできた詩編に度々登場してきた、初行の「神よ、沈黙しないでください」がやはり、印象的であろうか？あるいは、19 節終行の「あなたの御名は主/ただひとり/全地を超えて、いと高き神であることを（彼らが悟りますように）にも心を惹かれる。あとの部分は神が「敵」を滅ぼしてくれるようにとの嘆願で満ちている。イスラエルへの敵対はイスラエルの神への敵対であり、神への敵対はイスラエルへの敵対であるからである。イスラエルがそうであったように、敵に囲まれ、閉塞させられる中で少数者である信仰者は生きるのであろう。

1. 神よ、沈黙しないでください

私たちは困難に陥る時、神から見捨てられ、神は沈黙しているように感じる。木村文太郎先生は、「沈黙」には3つのタイプがあるという。私の声が聞こえない場合、相手は応えることはなく沈黙している。第二は、私の声は聞こえているが、応答することを拒否されている場合。第三は「沈黙すること」こそが、唯一の応答である場合。十字架でのイエスの絶叫への神の沈黙はこの第三の場合だという。遠藤周作の『沈黙』も印象に残る小説である。遠藤は生涯同じテーマを繰り返し、また、彼の主張は、悪魔的な性格を持っているが…。つまり、神は裏切り・棄教を許されるが、裏切って良い（「踏み絵」を踏んでよい）とは言われないであろう。この違いは小さいようであるが、実は大きく、小説はあくまで「作り物」である。

詩編は重ねて「黙していないでください」と懇願するが、原文は「あなたの平和を留保しないでください」というような意味である。「静まっていないでください」は声を出さず静かにしていること。2 節の終わりに「神よ」(’el) という力強い呼びかけがあるが、最初の「エロヒーム」とこの「エル」がかぶっており、この「エル」は3 節以下にかかるのかも知れない。

2. イスラエルに敵対する周囲の諸族、諸都市

「エドム」はパレスチナの南部に住む、エサウ（ヤコブの兄）を先祖とする部族。イシユマエルはエジプトの女性ハガルによって生まれたイサクの異母兄弟、モアブはロトの姉の娘がロトの処に入り産ませた子の名であり、エドム人と接して、死海の東岸地域に住み、親族アンモン人と共にヨルダン川の東に住んでいた。「ルツ」はモアブの女性であり、モアブ人は基本的にイスラエルに敵対はしないが、ヘブライ人がエジプトを出て約束

の地に入植する際に、その土地を通過することを拒み、バラムを派遣して呪わせた（民数記 22-24 章、ヨシュア 24:9）。アマレク人は「エサウ」の子孫であるとされ（創世記 36:12）、極めて好戦的であり、最強の敵であった。ゲバルはフェニキアの古代都市でシドンの北 65 キロの地中海沿岸にある。ペリシテは鉄器文明の担い手であり、地中海のクレテ島（カフトリ）から出たと言われている（申命記 2:23）。西洋史では「ヒッタイト」と呼ばれているが、「パレスチナ」の語源である。ティルスはシドンより南に位置する地中海沿岸都市で、口語訳では「ツロ」である。ミディアン人はアブラハムの第三の妻ケトラの子であり（創世記 25:1, 2）、ラクダによる隊商貿易（時には略奪隊）に従事し、パレスチナに侵入した。モーセの妻の父はミディアン人であり、「ヤハウエ」の神名はケニ人あるいはミディアン人に由来するとも言われている。モアブの地域で出会ったミディアン人はイスラエルと敵対した。シセラはデボラとバラク軍によって暗殺され（士師記 4:2-24）、ヤビンはカナン人ハゾルの王でキシヨン川においてやはりデボラとバラク軍に敗れた。エン・ドルはサウル王が禁じられた口寄せに頼った場所（I サムエル 28:7）、タボル山の南約 6.4 キロ。ミディアンの長オレブはゼエブと共にギデオンによって滅ぼされた（士師記 7:25）。ゼバ（詩編 72:10）とツアルムナのゼバはハムの子クシの長子（創世記 10:7）とその子孫が住んでいた地域でアフリカの紅海に面した地方と推定されるが、ツアルムナは不明である。

3. 信仰は民族、国の境を超えることができるか？

このような敵対する諸部族、諸民族とイスラエルの関係を考え、また昨今の紛争、戦争を考えると信仰がどこか自己同一性（アイデンティティ）を巡る闘いであるゆえに、民族、国の境を超えられるのかが問われている。『境界を超えるキリスト教』（明治学院大学キリスト教研究所、教文館、2013 年）や『国家を超えられなかった教会 15 年戦争下の日本プロテスタント教会』（原 誠著、日本キリスト教団出版局、2005 年）が書かれる所以であろう。人はどうして容易に民族や君主、「国」に自分を重ねてしまうのだろうか？

2023 年、異質な他者と共存すること、「平和」（シャローム）を求めて祈り、努力することこそ教会の課題である。

4. 全地を超える「いと高き神」（エルヨーン）、その名は「ヤハウエ」

真の平和、違いを認め共存する道は、全地を超える「エルヨーン」と奴隷の地エジプトからヘブライ人を脱出させた解放の神「ヤハウエ」と重ねて知り、悟ることによるのだが、「ヤハウエ」のみ名が「万軍の」主という言い方と結びついている危険は否めない。やはり、「平和の主」、イエス・キリストの「み名」の到来を希望するのみなのであろう。